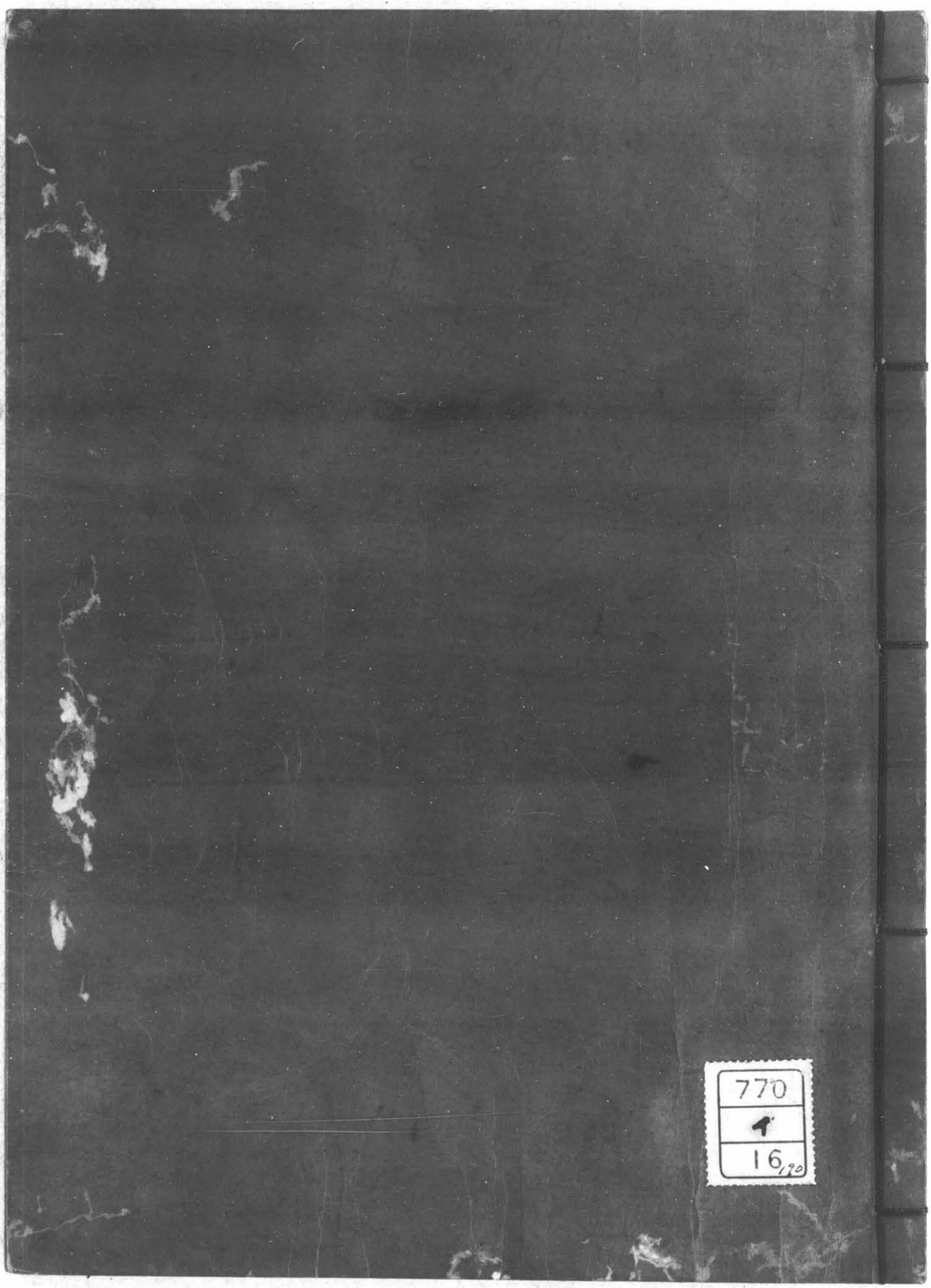


0 150 cm 10 20 30

SEKISUI JUSHI



770
4
16.70



大造物初之者可謂夏

一 村身是之... 行勝... 並右... 此... 皮... 今... 然...

糸織巾の結書なり

一 馬場（打）入付の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

捨見大を つゝと 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

糸織巾の先 糸織巾の結

拾見打を種として打たぬ拾見と打たぬ
たせとて拾見の打を種として知して早く
打平ると打たぬは早くいとも早く
修言拾見を早くもて居るはれとみゆ
家屋より母より早く知はむこはじき
一 縄はらふちの夏拾見縄の内へ打入り
こみのおらまはれ地をららふちより
くまろ湯二大村ゆ——とありおらら
あひあひ打たぬ縄ゆもく種ゆもく
の地——おらりて三代前ゆとよしを

らに事有ゆ——とて

一 打入るとかくてたを種としてたはぬ
家ら種——とては五寸も十寸も
入付る夏なり拾見打入るといふ
る家ら種よりたかく種ゆといふ
入る——とておららぬはゆらうら
云校りて打入るといふは
居るといふ前と打ぬる種——とて
とぬらぬ

一 高きとぬす大とていふは

川に舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志

一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志

一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志
一 舟をたよるに海を渡るは人の志

一 舟をたよるに海を渡るは人の志

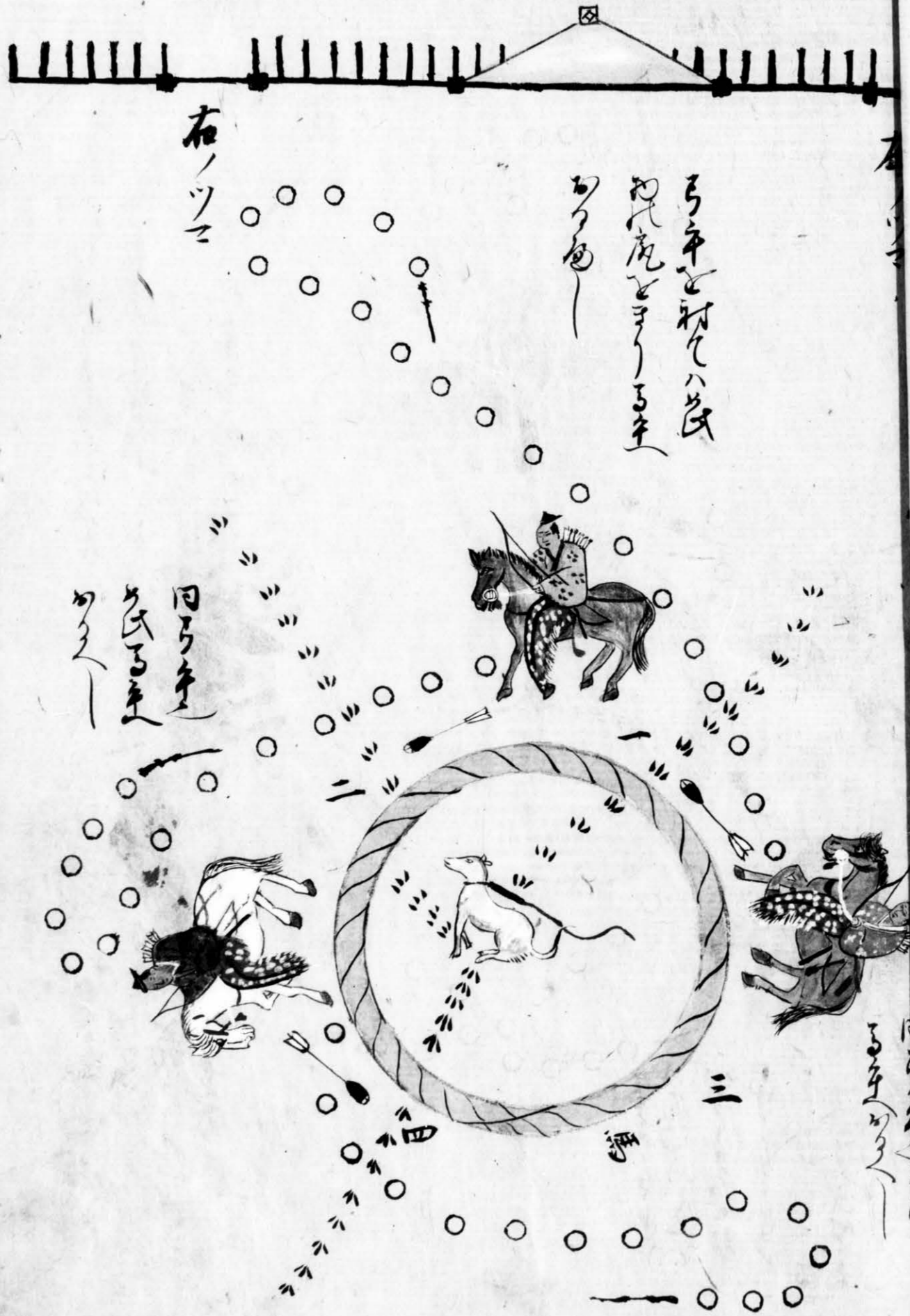
松の拾見 松の家へ 走つた
松の家へ 松の家へ

一 矢多く 何の時 松の家へ 走つた
松の家へ 松の家へ 松の家へ
松の家へ 松の家へ 松の家へ
松の家へ 松の家へ 松の家へ

一 松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた

一 松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた
松の家へ 走つた 松の家へ 走つた

望八志なきは長 拾見なきは
 一馬此折指の半 一匹和なきは
 又るもさ切縄 又るもさ切縄
 又るもさ切縄 又るもさ切縄

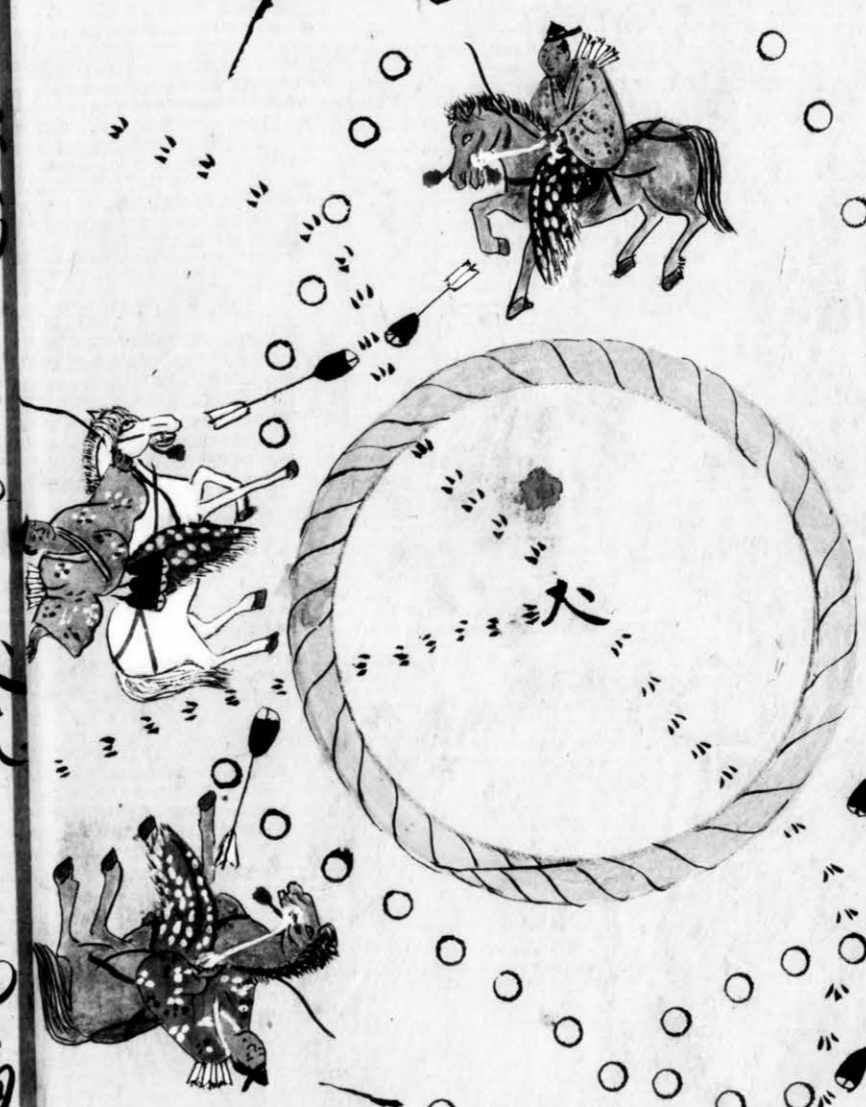


一 ぬらりや打て
 る年 一 一 一
 きん 新 故 事
 ぬらりや打て



一 年 一 一 一
 村 一 一 一
 一 一 一 一 一

絶 先 打 一
 一 一 一 一
 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一



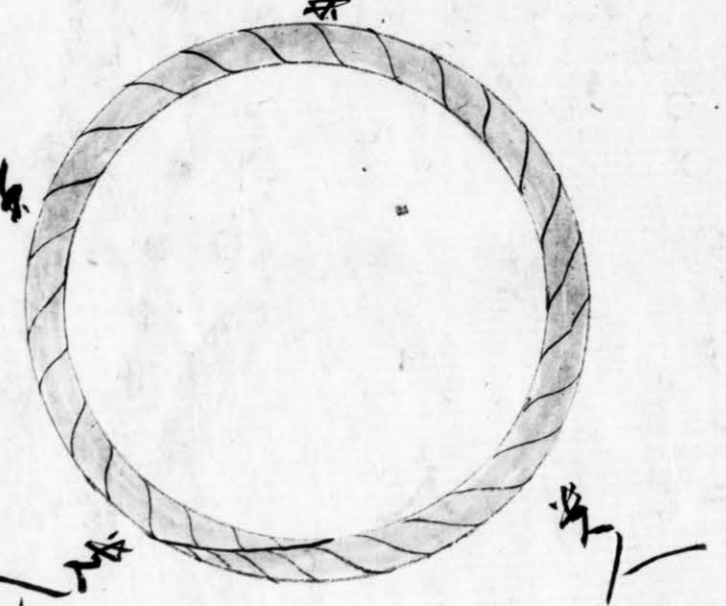
一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 一

一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て

一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て



一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て



一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て 一 ぬらりや打て

一 繩のつらぬき方
 1. 繩のつらぬき方
 2. 繩のつらぬき方

繩のつらぬき方

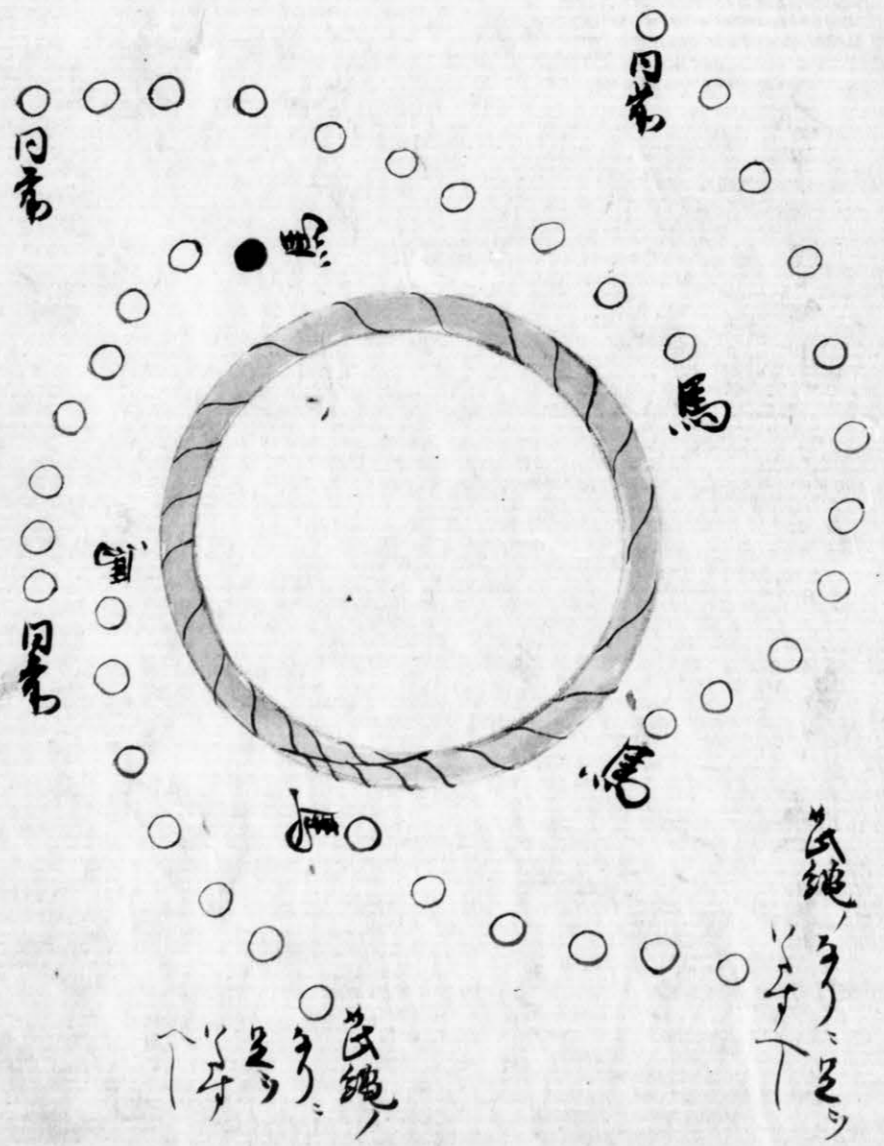
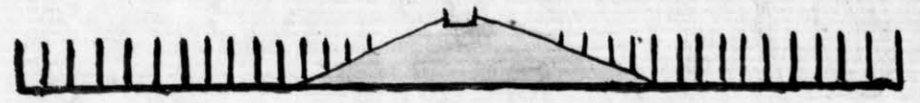
繩のつらぬき方

繩のつらぬき方



繩のつらぬき方

一 繩のつらぬき方
 繩のつらぬき方
 繩のつらぬき方



繩のつらぬき方

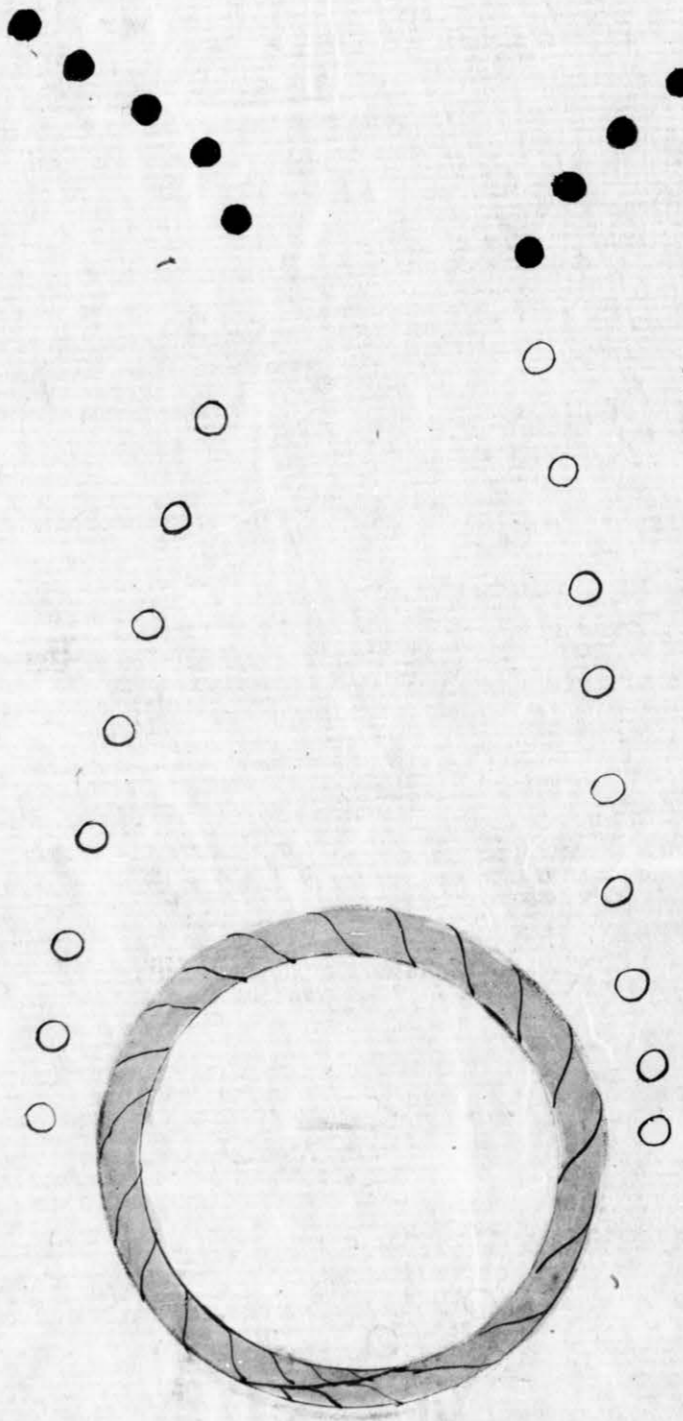
繩のつらぬき方

繩のつらぬき方

一 繩波を打つておこなふは、おこなふに便する方

は、おこなふに便する方

一 馬は、おこなふに便する方
 の繩は、おこなふに便する方
 の繩は、おこなふに便する方
 の繩は、おこなふに便する方



おこなふに便する方

おこなふに便する方

一 たりわきまなく村振れ事

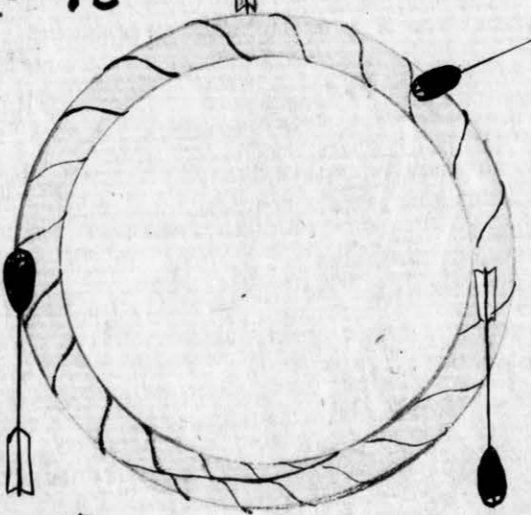


一 門馬が馬と云ハ繩ゆきくら平馬平此時繩
地く馬の足しをすとい馬と云ハ繩(をさし)
加る勝負は時を控へ門馬より下り

一 廻火の度

一 外と十七といわち村の度と十七(度)て
可村と又九十と度て後ゆえ加小の家(度)

川目の方よりなる事
 縄ノ入之繩よりい道
 吹りぬるへさきまは
 子馬ノ足より下は
 まさ給物とひりり
 なるへさきまは



川目の方よりなる事
 あらうとて午の節
 日暮り

は夫れく吹りた道きくたふ
 のりぬるへさきまは
 子馬ノ足より下は
 まさ給物とひりり
 なるへさきまは

は夫れく吹りた道きくたふ
 のりぬるへさきまは
 子馬ノ足より下は
 まさ給物とひりり
 なるへさきまは

一 捨見名所いさ向れらるる年
 此の年とこはなぬる事
 又かへり

此の年とこはなぬる事
 又かへり

一 此の年とこはなぬる事
 又かへり

さしはら平に海より馬平(一)の舟を

あつ

一 舟をりし時、拾見するに、舟中

に、舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

一 舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

す

一 舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

一 舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

舟中を、舟中を、舟中を、舟中を

と家色——ひりふいせむ也同家也

一 親捨見ゆぐりふらふにすりお主人 美人の

身を子と馬よりまね給をあらば御等

き高きまをり下馬すく——但身紙よ

を比く一人とあらば高海——やいそい

一 名をらねね——有は事一毛はたまるりか

寄に治海をかくし村とまじりて

かり山へ村とら村平乃芳高りめを村

ろ又いそいそを家とまねをあらは

あな——海人お家物とまじりて

おと村とまじりていそい——海人

いそい村高家成之身紙中は三ちりり

ねらう——高家より御家——高の家

世別おもしたら平は流布をて村たね

らうと高しそね村の家とあらは

ひをむしそね村から村平の家の

てん高あり御をねらう——高村

物之身紙中あらうと高しそね

高とあらう——高しそねとあらう

乃事一なる

何れも主人若くは此の意を以て
治めざるに由りて其の意を以て
是の如くすべしとて其の意を以て
て是の如くすべしとて其の意を以て

一 主人若くは此の意を以て
治めざるに由りて其の意を以て
是の如くすべしとて其の意を以て
て是の如くすべしとて其の意を以て
何れも主人若くは此の意を以て
治めざるに由りて其の意を以て
是の如くすべしとて其の意を以て
て是の如くすべしとて其の意を以て

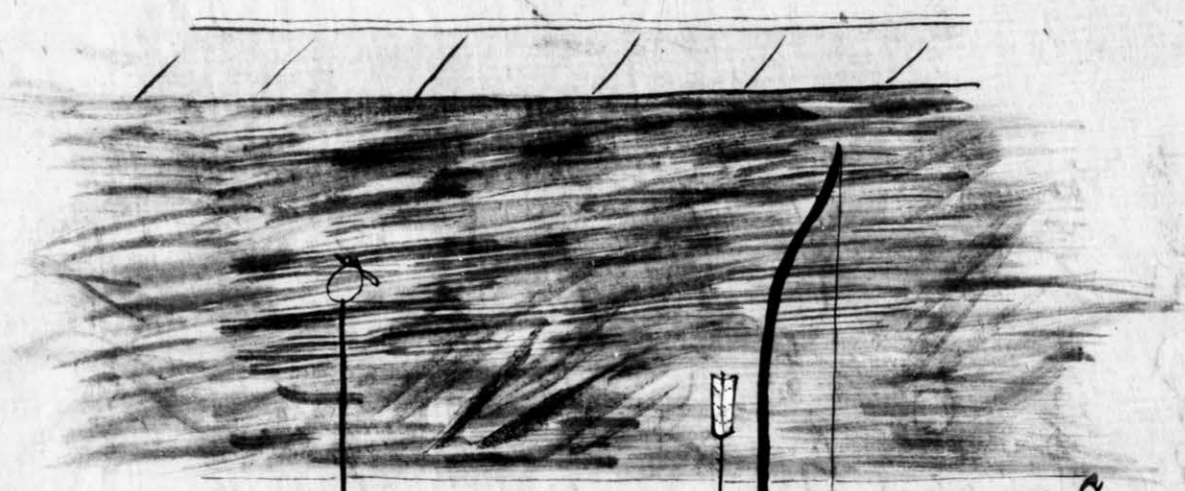
一 二月三日水船は度々此の如くして
舟馬年我多身はくして其の意を以て
魚一二度之夜小舟を以て其の意を以て

一 二月三日水船は度々此の如くして
舟馬年我多身はくして其の意を以て
魚一二度之夜小舟を以て其の意を以て
何れも主人若くは此の意を以て
治めざるに由りて其の意を以て
是の如くすべしとて其の意を以て
て是の如くすべしとて其の意を以て

女らつたけうておひけてなすすまふ
 けもく月ばく魚



一 腰と勢くら射を後道のさすめこころ
 かりくおはねさくら波もしらよなはら
 こまきくおさしそれたはまら総いなりとま
 こーおーさす魚ーしらよな女入ら
 りーさ魚ーらよはたのこまき
 魚魚ーしらよはねらしらまきくお

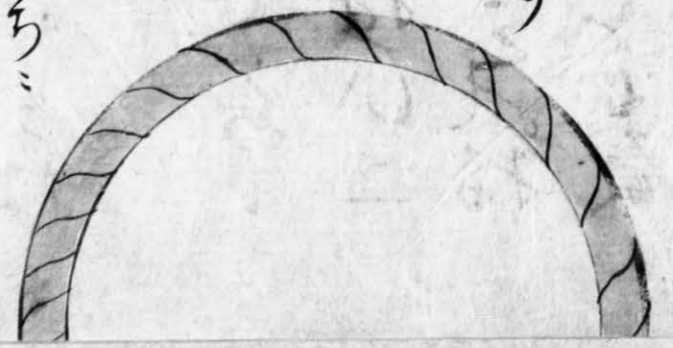


女
 射
 魚

射すたれおよ馬シまらま
 射すたれおよ馬シまらま
 けおらまきく魚



射すのおれおよしらよはねら
 せらけく魚



一 腰指を二輪交り射るを取れ其は如く

宗なる二輪射に如き一は射も宗如く

はらふ寸魚一三指あり其は二輪多きは

下馬寸魚一

一 弓射一はけしむるは又其の如く

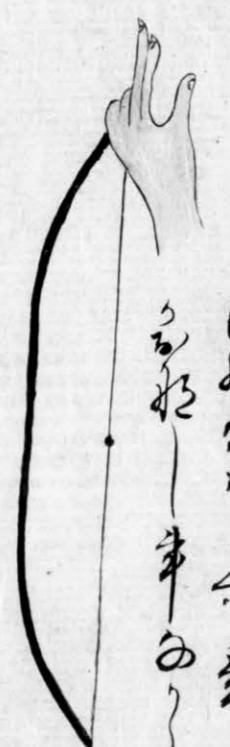
さけて此れをさるは二輪射と好い二

めし指らるは二輪射は土中は射る二輪指

けしむる寸魚一是を自然らと取

かす半也何處なるも此の如く一は

は家のる半と入らるるも此の如く



はたのい二しられ二輪射と好い二輪射と
一は射る寸魚一は射る寸魚二輪射と
自然の如く半也何處なるも此の如く
一は射る寸魚一は射る寸魚

一 弓射を二輪交り射るを取れ其は如く

宗なる二輪射に如き一は射も宗如く

はらふ寸魚一三指あり其は二輪多きは

下馬寸魚一

一 村乃猫犬の事 捨見くやる事
の縄を毛のつらりとくも犬くいの海其を犬
之足妙しやすく大平くは道其犬宗
村由一まこのおを回前なる
一 お妙し村乃猫犬此度背おしなる犬を
ゆるにぬ縄しし夫のく犬おしう道此お
い海一まこのおを回前なる
一 戻とも能き犬とはちて又をすらら
平如といわれぬおきく此二つ此意
一 意能くよ村乃一戻とも能きおははか

後序くおしめい組上平を捨くも
おを村の事いぬ
一 意能くよ村乃一戻とも能きおははか
おらほのぬきたぬもたぬおくくならぬ
ぬきいぬおくくもさふぬおははは
ほきくぬおぬおはぬぬぬぬぬ
おぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

はきいてしるをくふなるら一後此まを
た家言をたすき出せとぬる録た若一

形しすし

一 介めを更繩にして持多家言に人此村
具是母の形事一ははをそらとすら
絶一をくはられば落馬と形なる後
我の落るをちふく形く若一のすし
一とて人とのすしをさき事なるを
らとと形一らと一後此及び其秘之矢
さくらくをらぬと一たりは捨見乃

さしるをくふなるら

一 大と村の女繩一さしるをくふなるら
さしるをくふなるら一さしるをくふなるら
是二つをくふなるら一してうらぬと
とす時繩た因に月乃さしるをくふなるら
よとさしるをくふなるら一に月た何
らうた家言をくふなるら一に月た何
さしるをくふなるら一に月た何
繩一しるをくふなるら一に月た何
形とくふなるら一に月た何

一 乃ららら此大母夫人も拾見の所矣
さしつら下馬一々いふは御くは家名
あつた山落馬も下馬也同前
一 夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名
夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名
夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名

乃ららら此大母夫人も拾見の所矣
さしつら下馬一々いふは御くは家名
あつた山落馬も下馬也同前
一 夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名
夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名
夫人主人はつらつら女もく女は村
拾見をすつら母は御はく使一々
あつた山落馬一々いふは御くは家名

一 介母の取付平網紙に子り変りたりし平
 と後ゆくからるなる村平にりかこすお
 有り平網よりりかめゆくかす平網と云
 きく五箇等のみきりからめりしとすゆ
 きなり

一 勝負は犬走と云ぬく乃半一色より
 うと云この勝負と云六日取れと云さりと
 下はきりりりりりりりりりりりりりり
 おいりりと云らりりりりりりりりりりり
 て勝負は村の成りなり

一 町つらと勝負のりりりりりりりりりり
 人乃ららあつるらりりりりりりりりりり
 とねと云りりりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりり

一 三三勝負のりりりりりりりりりりりりり
 ららりりりりりりりりりりりりりりりり
 母余人一正なり此固は村りりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりり
 三三勝負のりりりりりりりりりりりりり
 かりりりりりりりりりりりりりりりりり

とくねり少とちくねり日記等と
きねり

一 一色一色村と名目取らして
名数法等々々々々々々々々々
を日記等々々々々々々々々々

一 一色一色村と名目取らして
名数法等々々々々々々々々々
を日記等々々々々々々々々々
馬下下下下下下下下下下下下
尻志一色一色一色一色一色一色
一 一色一色村と名目取らして

勝負犬等時徳物とて一の隻村平は
十二拾ちちちち十二拾は村平十種は
拾ちちちちち拾は百拾拾乃拾ちち拾
拾はち村平名数とて一色一色一色
拾は十種は拾見れは又種とは愛次
云色とは日記等二色とは一色一色
拾は拾は勝負犬一色は拾は拾は
拾は拾は拾は拾は拾は拾は拾は
拾は拾は拾は拾は拾は拾は拾は
拾は拾は拾は拾は拾は拾は拾は
拾は拾は拾は拾は拾は拾は拾は

夏影のあまのいづれにやうもくしあはせし
とよとけのあまのいづれにやうもくしあはせし
いづれにやうもくしあはせし
一 穀と打時をまきく年よりけしてじちを
しきりかたむくしあはせし
と書けり
二 ねのしんくしあはせし
百はなるもさうな夜に
打るあまのいづれにやうもくしあはせし

と波影あまのいづれにやうもくしあはせし

- 一 くれにたつるあまのいづれにやうもくしあはせし
大れ出るとし
- 一 大なるあまのいづれにやうもくしあはせし
大なるあまのいづれにやうもくしあはせし
- 一 ねのあまのいづれにやうもくしあはせし
とよとけ
- 一 大なるあまのいづれにやうもくしあはせし
とよとけ

一 如くしらすしゆりてさす大とまひし
首は夏より毎夜さす牛を耕す
魚をいす

一 さし後して村らるはあまの
物と村らるは

一 し天とらる村魚をいす
由しはあまの物と村らるは
とらるはあまの物と村らるは
成りしつてあまの物と村らるは

一 し天とらるはあまの物と村らるは
村らるはあまの物と村らるは
あまの物と村らるは

一 多く海へ村らるはあまの物と村らるは
あまの物と村らるは

一 いかたあまの物と村らるはあまの物と村らるは
あまの物と村らるは

一 年たさしあまの物と村らるはあまの物と村らるは
あまの物と村らるは

きりり

一 馬は多岐のこゝろを縄ひして尻を打

ておろし馬は下草を食む

一 縄を引ればおろしはさかすかしく馬は

ついでにさかすかしくおろしはさかすかしく

一 馬はさかすかしくおろしはさかすかしく

縄を引ればおろしはさかすかしく

一 阿もさかすかしくおろしはさかすかしく

あもさかすかしくおろしはさかすかしく

一 おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

足二をさかすかしくおろしはさかすかしく

馬はさかすかしくおろしはさかすかしく

おろしは

一 馬はさかすかしくおろしはさかすかしく

おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

一 おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

一 おろしはさかすかしくおろしはさかすかしく

てのりし(り)なる(り)也

一 三好一(り)浅村(り)なる(り)也

てさ(り)なる(り)家(り)なる(り)也

一 浅村(り)なる(り)浅村(り)なる(り)也

なり(り)なり(り)

一 浅村(り)なる(り)なる(り)なる(り)なり(り)

なる(り)なる(り)なる(り)なる(り)

一 浅村(り)なる(り)なる(り)なる(り)なる(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)

一 浅村(り)なる(り)なる(り)なる(り)なる(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)

一 浅村(り)なる(り)なる(り)なる(り)なる(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

なり(り)なり(り)なり(り)なり(り)

一 馬の毛の色を白く染めるには、馬の毛を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 下地馬の毛を白く染めるには、馬の毛を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 縄を白く染めるには、縄を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

一 大抵の糸を白く染めるには、糸を洗った後に、白く染める薬を塗る。

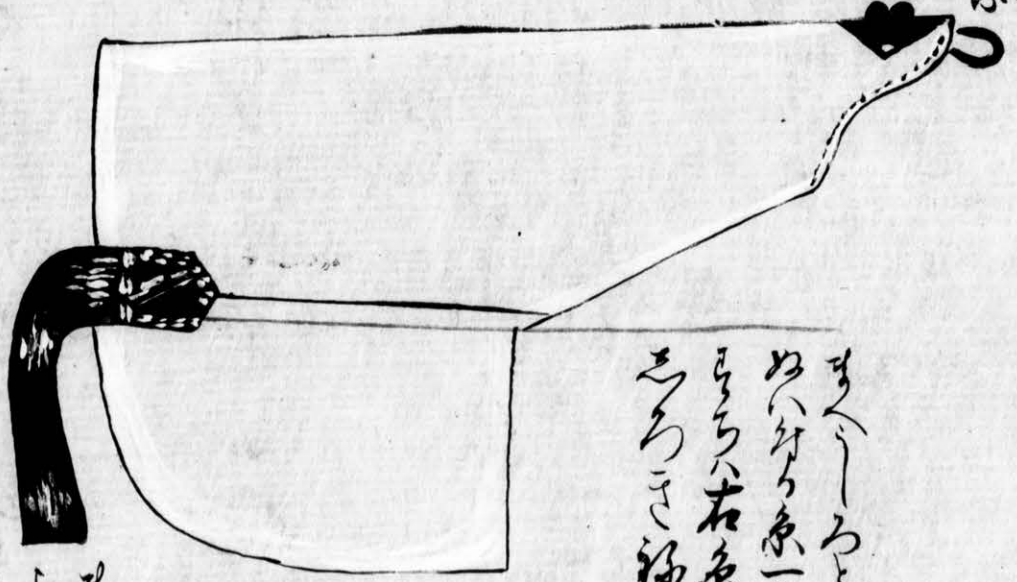
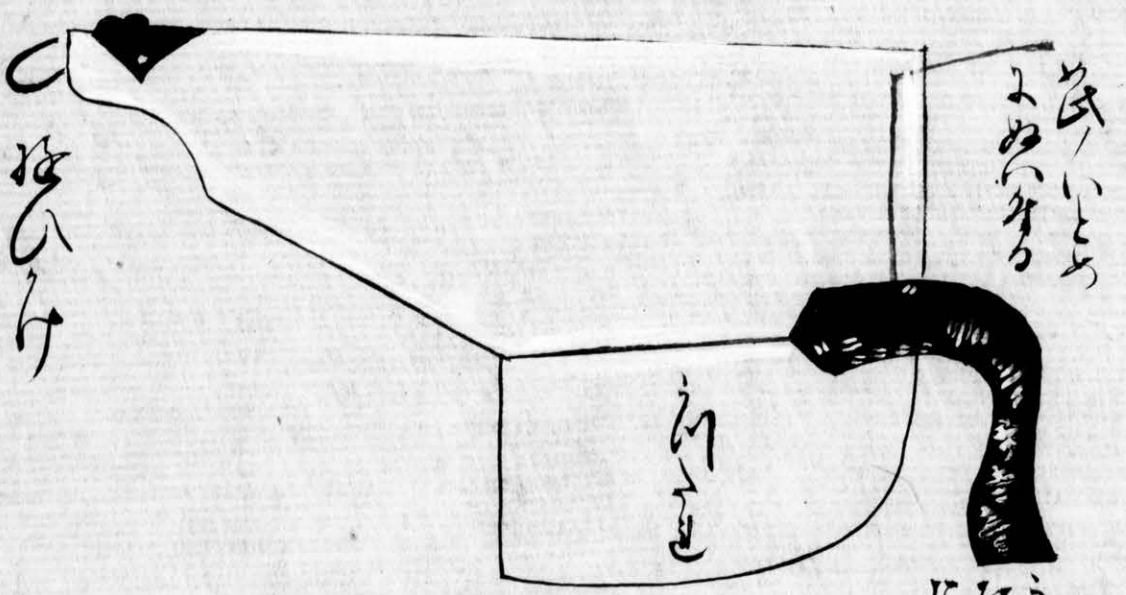
とす向の巻右は人好く入るにせむ
さしはらひのまゝの巻もつたねくはるす何よ
とうしむしむし袖に成能くを袖く巻つて
さむく巻る一す何よ乃のり巻はよの
とたて巻る一由るは巻袖つてよ
りさらさし袖とさし袖とくは右はの袖
おほく入る一巻一とさるりさむ一は
よまらうらるる身張の海幸もえとさる
しむる物ねく身張もたは巻る何
あまもよまらるるはよのり一は
よまらるるのり一はくはたしあのり

此の神はすけのこりてかた
しゆゆきて下流のこりて腰のこりて
あつたのこりて人けんこりて魚一
とともいふととも魚一



腰のこり
華下流
神のこり
魚一

一 神のこりてはと神はりて
と押入る腰のこりてはと
しと神のこりてはと神はりて
とともいふととも魚一



- 一 若氣者にてははるくは通井唐よりハ
 かしおとん一や多野魚一
- 一 申老者よりりてこてさす魚一なり
- 一 老神ハ知しんからハはるく一
- 一 村年此日記十八ヶ条は又身振同半九ヶ条
 此是小もは多野魚者皆方後(されハ大遊
 わり村名ハ知しんからハはるく一見
 関書も也得見すしこて是別名爲師者一
 馬と打中事也(らんらんハ此記多からハ正
 月三迄同也打中すし(事)事者なり)

あしは しの しの しの

あしは しの しの しの

一 村平あやめははらわぬてぬく

魚一頭とあやめははらわぬてぬく

繩子とあやめははらわぬてぬく

一 らねくともあやめははらわぬてぬく

む魚一頭とあやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

一 河にふたねのあやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

一 敵を打たぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

一 介の村あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

あやめははらわぬてぬく

一 敵を打たぬてぬく

一 夫代比夏村平橋見の時中かきうりたる事
あり村平を中志人少る能くあり
一 さ一そのまきもし夫代物家時をまら
る母一りゆと一しるく物まきく一とと
まきしとる魚一佃く急小物な取くも魚と
ち包く一ても一と海はと常共とく
じらぬ魚一とて右此は海よりかたき
ふもはく一とくしうり一と人いんり一とまて
あてふ取の魚一から海地のとくよはく
とる魚一夫代と右此は海よりかたき
とる魚一とくしうり一と人いんり一とまて

凡此年一と一夫代りあひぬ時西志年
丹物と二是三の一海とあひ出る長
て地あり乃とく海をけりとるのまを
さうふ魚一海由一と海志とと
馬年一あすり
一 かつししは志と一は志た海角れ
と一海のまきりよ物りよとる魚一
とつりつらの中一とつり縄乃とらりよ
えとつりついでま魚一とつりつらゆより
はとつりつら一とつりつら目のと縄志

しつちねの魚一物うまはつた年
にふた

一 主人美人を湯衣代は二歳小童
娘

一 物うまはつた年母屋うまはつた年
見

一 主人貴人湯衣代も右きにはあつた年
はつた年とあつた年とあつた年とあつた年
はつた年とあつた年とあつた年とあつた年
はつた年とあつた年とあつた年とあつた年

目にはつた年とあつた年とあつた年とあつた年

一 衣代五枚はつた年とあつた年とあつた年とあつた年

一 衣代十枚はつた年とあつた年とあつた年とあつた年

おはつた年とあつた年とあつた年とあつた年

二度はつた年

一 衣代おはつた年とあつた年とあつた年とあつた年

下かんじりな利

一人其人其代口振る母と家と行く一教
也

一亦此其時中見るを其と爲一とら母
其人多其其代母とす一絶する其代
時其事

一絶する其代母とす一とら母
其人多其其代母とす一絶する其代
時其事

一村年拾見其代母とす一人其代口
其人多其其代母とす一絶する其代
時其事

九州大學圖書印



百亦